

ボランティア通信 2021.10 Vol. 246



# ななかま

発行 交野市ボランティアグループ連絡会  
(交野市ボランティアセンター内)

V連絡会 E-mail katano.vltr94@gmail.com  
Vセンター E-mail katabora1994@katano-shakyo.com



ボランティアを  
紹介してほしい人  
ボランティア活動を  
はじめたい人  
ボランティアセンターに  
お問い合わせください  
(Tel 072-894-3737)  
(Fax 072-891-3340)

91年11月、手書きで始まった「ななかま」創刊号、素人ばかりで作る機関紙(B4版・2面)、誰に配るのか、誰が配るのか、試行錯誤しながらのスタートでした。季刊発行をベースに16号を数え、12号では、阪神淡路大震災で西宮市での炊き出し、夙川地区での安否確認、被災状況の調査などに駆けつけた様子を特集しました。96年4月まで通巻16号を発行し、その後、01年4月まで、ボランティア情報・ボランティア通信として、グループ・ボランティア通信として、グループ・ボランティアなどを制作発行し、ボランティア情報の発信に努めてきました。

01年5月から「ボランティア通信ななかま」が装いも新たに月刊紙として再スタートをきり、創刊後から数えて30年を歩んできました。

昨年、連絡会の諸活動の見直しの中で、ボランティア通信「ななかま」を季刊発行に変更し、より充実した機関紙への展開を模索していますが、コロナ禍の下

## 「ななかま」の新たな道を探る

で所属グループの活動休止や停滞、グループの解散等、厳しい環境に置かれています。ボランティアに寄り添い、各グループ間の橋渡しができる、そんな機関紙でありた

いと願いつつ、「ななかま」の配布方法も含めた多面的な検討が急がれます。ボランティア皆さんのお知恵をいただき、みんなで新たな一歩を踏み出すために、今回は「ななかま」の活動経過を特集しました。ご意見をお待ちしています。

(2・3頁に関連記事)

### グループ訪問「おじゃまします！」Vol.1



広報を点字プリンターで打出し中

#### ～点訳「虹の会」～

9月10日(金)、点訳「虹の会」を訪問させていただきました。虹の会は、毎週金曜日10時～16時、ボランティアセンター1階にて、活動をしているグループです。

コロナ禍ではありますが、感染予防対策を取りなが

今年9月にはグループ結成40年を迎えられました。これからの活動を続けていくためには、ななかまが必要ですが、点字と出会うきっかけ作りも難しいようです。まずは、そこから連携できないかと考えています。(K記)

ななかま次号発行予定

令和4年1月11日(火)

## ボランティアのみなさん ボラセンよってって～

登録ボランティアにおいては、コロナ禍で通常のボランティア活動ができる人、活動休止中の人、新しいボランティア活動を始めたなど、さまざまな状況であります。

みなさん、気軽にボランティアセンターでおしゃべりしませんか。久しぶりの人もはじめてボランティアセンターに来られる人も大歓迎です。

[内容] 1階活動室にて自由に歓談  
※健康講座や ICT 講座などを開催する月もあります。事務所にお問い合わせください  
[開催日] 奇数月 (11/10、1/19、3/9) 13時30分～15時30分  
偶数月 (12/6、2/7) 10時～12時  
[予約] 不要  
※イベント開催時は事前申込の場合があります  
[問い合わせ] ボランティアセンター

追悼 障がい者・施設支援「ふれんズ」創始者

### 季代ちゃん安らかに



金澤季代子さんは骨形成不全症という難病を持って出生され、就学猶予という制度のもと1年生から入学できず昭和54年、制度の改革で4年生から交野小学校さくらんぼ学級で学校生活を始められました。その後、支援学校高等部を卒業後、市内の作業所に通われ、作業所にボランティアが来てほしい、という願いから作業所支援活動グ

ループ「ふれんズ」を立ち上げ、自らグループリーダーを務められました。彼女の前向きで積極的な行動と明るい声は周囲の人を元気づけてくれる存在でしたが、数年前から体調を崩され、闘病むなしく7月2日永眠されました。もともと長生きしてみんなを励ましてもらいたかったのに本当に残念です。

合掌 (栗原)

## 男性ボランティア大募集!!

～アクティブシニアになりませんか～

これまでの経験を活かして力を発揮してみよう！という男性を募集します。地域ではサロンのお手伝い・広報誌の作成・会計関係、車の運転での送迎、ボランティアセンターでの活動などに力を貸していただきたいことがたくさんあります。現在、活躍されている人の話を聞いて、ボランティア活動を始めてみませんか。

[開催日] 12月15日(水)午後1時30分～3時30分  
(受付開始 午後1時～)  
[場所] ボランティアセンター 2階 活動室  
[内容] 活動紹介や実際に活躍している人々から、ボランティア活動することになった経緯や活動内容、感想などをお話ししていただきます。  
[対象者] ボランティア活動に関心のある男性(夫婦での参加も大歓迎です)  
[定員] 15人(事前申込み制)  
[参加費] 無料  
[申込・問い合わせ] ボランティアセンター



### OSAKAボランティア手帳のご案内

形式 令和4～令和5年度版 2年  
(2021年12月～2024年3月)  
【寄付つき手帳】、今回より月曜始まりのブロック状カレンダーとなります  
販売価格 400円  
申込み グループ所属員は、グループリーダーが取りまとめ、個人登録はボランティアセンターへ(10月末まで)申込み代金 受け取り時に支払い引き渡し時期 11月下旬(予定)



▼今回は「ななかま」について特集を組んでみました。これからの「ななかま」のあり方について原点に立ち返り、生い立ちから現在に至る流れを紹介するなかで活かすべきところ、改良すべきところなど、読者でもあるボランティア皆様のご意見をお寄せ戴きたく特集を企画しました。▼コロナ禍でボランティア活動もいろいろと制約を受けていますが、今は「忍耐の時」と思っています。連絡会の諸活動についても、忌憚のないお声を寄せてください。お待ちしております。

取材での家庭訪問も懐かしく「なかま」との出会い、活動の経験が「さつき」「星の会」の活動に生きていると思っています。当時は手書きで、各グループから原稿を集めたり、インタビューとして取材で金澤さん中野さん三人で家庭訪問など動き回ったことが懐かしく、本当に楽しい日々でした。今は発行された「なかま」を読むのが楽しみです。継続は力なり！頑張ってくださいね。(新里)

**「なかま」に寄せる思い**

意気投合した仲間との出会い 祝 30 年、創刊当時、鉄筆で原紙に向かう栗原さんの楷書の手書きが懐かしい。各グループからの選出がきっかけで意気投合した金澤さんと新里さんとの交流も忘れがたい。何時からだったか記憶にないが在籍だけの長居である。文字と活気が飛び交う「なかま編集室」。和気あいあいに気力をいただき感謝しています。(中野)

時代と共に歩み続ける「なかま」 ボランティア活動を始めてしばらく経った頃、ポストに「なかま」が入っていました。それから毎月届くのが楽しみになり、今までの分は有難く全部保管しています。年4回の機関紙になった時に編集委員となり、コロナ禍での会議や記事内容が大変戸惑いました。しかしこれからも「なかま」は時代と共に、皆さんを繋ぎ歩み続けることを願っています。(庄田)

**これからの「なかま」について考えてみよう！**

**発行の目的・意義**

- ・市民へボランティア活動の周知を図る
- ・ボランティアグループ間の情報交流等々

それだけでいいのかな。時代に合った考え方が必要ではないかな。

**編集委員会**

- ・連絡会役員、編集委員（ボランティア、旧役員など）、センター職員（アドバイザーとして）で構成
- ・企画、編集、印刷、発送等を担当

新しいメンバーが加入してほしいね。見る目が増えればこれまでとは違った味が出せるかも。誰もが気軽に参加できる方法はないかな。

**配付先および配付方法**

- ・毎号 950 部発行。
- ・登録ボランティア会員ほか、公共関係機関（市役所、学校、図書館、市議会など）、福祉施設、民生委員協議会、府ボランティア連絡会など 50 カ所以上に配付。
- ・編集委員と配付担当ボランティアで分担。(登録ボランティア会員は戸配が基本)
- ・社協ホームページにも掲載。(2013 年 4 月から)

配付も負担のない方法がいいね。みんなが気軽に手に取ったり、見たりできるような、もっといい方法はないかな。

★一緒に「なかま」を作ってください方、大募集です!!  
連絡会役員またはボランティアセンターまでご一報ください!!  
よりよい機関紙作りを目指してがんばりましょう!!

**ボランティア通信「なかま」創刊号から 30 年**



当時は手書きの B 4 版・2 面

**1991年11月誕生**

ボランティア協会「えくぼ」(当時)の事業活動の一環として誕生。協会の活動状況を広く市民に知らせ、理解と協力を得るなかで、来る超高齢化社会に備えてボランティアの裾野を広げていくことが重要な課題である、と呼びかけ。

**1995年1月**

阪神淡路大震災で西宮市の炊き出し、夙川地区での安否確認、被災状況の調査などにつけつけた様子を「なかま」12号で特集

**1996年4月広報グループ発足**

ボランティアグループ連絡会への名称変更を機に広報グループ「なかま」が発足。(総行企画「えくぼ」は97年4月に解散)

その後いったん発展的解消をするものの、「グループだより」、ボランティア通信「てくてく」へと移行。



被災者の食事をつくるボランティア

**2001年5月  
ボランティア通信「なかま」が再スタート**

広報グループ「なかま」がメンバー不足で解散。連絡会役員やボランティア有志を中心に毎月発行。(2020年3月まで、通巻239号) グループ活動紹介やボランティアインタビュー(延べ83人)、グループ近況あれこれ、みんなの広場など。

**2020年4月より季刊**

2020年度より季刊発行(4・7・10・1月)に変更。(必要に応じ臨時号の発行) 右は「なかま」最新号(245号)

